



香港における紅ほっぺ試食販売風景

- ・温州みかんのカナダ向け輸出
- ・茶の米国本土、ハワイ州に向け輸出
- ・富士山静岡空港を利用した紅ほっぺ(苺)の輸出

【輸出実績】

- ・カナダ向け温州みかん 平成23年度 約350t(約248t)
- ・米国向け茶 平成23年度 約 0.3t(約 0.5t)
- ・香港向け紅ほっぺ(苺) 平成23年度 約 1t(約 0.2t)

※ カッコ内は、平成22年度実績。

【輸出のきっかけ、販売戦略、工夫した点、苦労した点等】

- ・みかんの輸出に関しては震災による放射能の影響もあり、米国への出荷ができなかった。
- ・米国本土向け茶のショッピングサイトを開設したものの、サーバーの不具合等に悩まされた。
- ・紅ほっぺは、富士山静岡空港を活用することで、国内輸送時間の短縮、品質保持が可能となった。

【輸出によるプラスの効果・メリット等】

- ・国内価格が安い年には生産過剰分を輸出する事により、農家収入の安定に繋がっている。
- ・ショッピングサイトの実績自体は少ないものの、今後ネットの特性を生かした広範囲での宣伝効果も期待される。
- ・紅ほっぺについては、新たな販売の取組として、産地のモチベーションが高まってきた。販売先からは、次年度の販売数量の増加依頼がある。

